

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：34404

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17134

研究課題名(和文) 職業・資格横断的な高度専門職の分類およびその経営管理モデルの研究

研究課題名(英文) Classification of occupation and a qualification crossing high profession and study of the management model

研究代表者

三島 重顕 (MISHIMA, SHIGEAKI)

大阪経済大学・経営学部・准教授

研究者番号：60454930

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では薬剤師、一級建築士、中小企業診断士を対象に、高度専門職の経営管理の研究をしてきた。初期は調剤薬局に勤務する薬剤師複数名に定性調査を行い、彼らの職務満足について分析した。結果、「専門能力の発揮機会」の有無が彼らの職務満足に影響を及ぼすことが判明した。その後、他の2種の高度専門職にも同様の調査を実施し、その妥当性を確認した。

これらの結果を受けて、薬剤師600名超に定量調査を実施した。この後、本研究は科研費の「国際共同研究加速基金」にも採択されたため、英国に一年間滞在し、薬剤師の日英比較研究(定性)に専念した。間接的なものも含め、成果は国際学会で報告3回、国内で3回、論文5本となった。

研究成果の概要(英文)： This study focused on management approach for high professions who belong in big companies e.g. pharmacists, first-class architects and “Small and Medium Enterprise (SME) Management Consultants”. At first, researcher conducted qualitative research for some pharmacists who belong in multiple community pharmacy and found their job satisfaction is influenced by “Opportunities to Demonstrate Expertise” (ODE). Researcher then checked whether this result has similar tendency or does not for first-class architects and SME management consultants. These results were almost same.

On receiving these results, researcher conducted quantitative research to about 600 pharmacists. The data has been analyzed by conducting multivariate analysis.

研究分野：経営管理

キーワード：高度専門職 薬剤師 専門能力の発揮機会 職務満足 中小企業診断士 一級建築士

1. 研究開始当初の背景

(1) 厚生労働省は医療費抑制のため、医療に従事する高度専門職の峻別を進めている。同省の推進する医薬分業は、薬剤師を、高度専門業務に携わる少数派と周辺の業務に専従する多数派に選り分けるなど、働き方の多様化を促進した。しかし、「専門能力の発揮機会」に乏しい後者では、転職が絶えない。また、台頭著しい格安航空会社(LCC)では、賃金が飛行時間に連関するため、他の民間企業と異なり、所属パイロットの「転職志向」が強い。2014年夏、ピーチ・アビエーション(株)はこの点でパイロットの管理に失敗し、2,000便以上の欠航を余儀なくされた。このように、高度専門職の働き方の多様化は、明らかに経営管理上の困難をもたらしている。

(2) ところが、高度専門職に関する先行研究は、彼らを1つの職業階級として扱うか、職業・資格などの枠組みで個別に分析することが多い。たとえば、日本経営者団体連盟(1995)は、彼らを「高度専門能力活用型グループ」という1つのグループとみなした。他方、金井・鈴木ら(2013)は看護師や学者などを個別に定性研究し、高度専門職のキャリアについて論じた。建築士、弁護士、医師、薬剤師などを個別に分析することで何らかの普遍性を模索する帰納法的手法は、英国(Carr-Saunders=Wilson 1933)、米国(Shapiro 1985)、ドイツ(McClelland 1993)など、他の先進諸国でも一般的である。定量分析では、Hackman and Oldham(1980)や太田(1993)の研究のように、高度専門職の職務満足や帰属意識など、組織論・管理論的領域での普遍性を探る研究が多い。このように、先行研究の多くは複数ないし一職種の高度専門職に内在する共通項の探索に焦点が置かれており、昨今の社会動向を踏まえた新たな枠組み・分類の提示を試みる性質のものではない。しかし、現在では職業・資格などの単純な枠組みで、あるいは「高度専門職」という1つの枠組みで、彼らの普遍性を論じることが困難である。したがって、何らかの尺度を用い、高度専門職全般を新たに分類する必要がある。

2. 研究の目的

(1) 「高度専門職」は、従来の研究では定性・定量を問わず、「高度専門職」という1つの枠組みで論じられることが多い。しかし、現代社会における彼らの働き方は著しく多様化しており、単一の職業階級として議論ないし管理することには限界がある。本研究の目的は、職業・資格などの枠組みではなく、従来とは異なる尺度(変数)から高度専門職を新たに分類することにある。そのために、ヒアリング調査で幅広くデータを蓄積し、アンケート調査によって高度専門職を適切に分類する尺度を検証・特定する。このプロセ

スを経て、新尺度を用いた高度専門職の分類を試みる。

(2) その後、2つ目の目的として、分類された各タイプの適切な経営管理モデルの構築をはかる。本研究期間後の研究の継続性・発展性の基礎を築くためである。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、従来とは異なる高度専門職の新しい枠組み・管理モデルを提示するため、①文献調査による理論研究と並行して、②企業や公官庁に勤務する高度専門職に質的調査を行い、組織行動の視点からのデータ蓄積やアンケート内容の精緻をはかった。その後、③協力企業で予備調査を行い、さらなる修正を加え、④量的調査(本調査・Web調査)を実施した。なお、定性調査の被験者は薬剤師、一級建築士、中小企業診断士であった。定量調査の被験者は、薬剤師約600名であった。

(2) 薬剤師に対するインタビュー調査は、大手調剤薬局に勤務する薬剤師、ならびに個人薬局を運営する薬剤師を対象に、北海道と近畿地方で実施した。また、一級建築士への調査は、準大手ゼネコンに所属する方々を対象に、主に九州でインタビューを実施した。中小企業診断士に対するインタビュー調査は、近畿では大手企業に勤務する方々や独立された方々を対象に、東京都内では大手企業に勤務する中小企業診断士を対象とした。

(3) 本研究を進めていく過程で、当初は予期していなかった幸運に恵まれた。2016年1月、本研究が科研費の「国際共同研究強化」の対象として採択され、英国の薬剤師に調査を実施する機会を得た。そのため、2016年から2017年にかけて、「専門能力の発揮機会」と「職務満足」の関係性について、イングランド全域で大手調剤薬局に勤務する薬剤師ならびに個人薬局を運営する薬剤師約25名に定性調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 論文、「高度専門職の需給状況と雇用管理に関する一考察—薬剤師に対するインタビュー調査から—」(単著)を執筆した。労働市場において超売手市場が続く薬剤師の雇用管理に関して、収集したデータから考察した。同論文では「勤務地」、「給与」、「勤務形態」、「職務満足」、「職務不満」、「人事考課」、「キャリア志向」、「人間関係」、「所属意義」の9点に焦点を当て、雇用管理という点で、薬剤師が職場に定着するのに効果的と考えている事項について、経営側の実現可能性も含めて論じた。その結果、「顧客(患者)と信頼関係を築ける職場であること」が定着と職務満足に大きな影響を持つことが判明した。

(2) 論文、「高度専門職の需給状況と所属企業に対する認知に関する研究：建設会社に所属する一級建築士のインタビュー調査から」（共著）を執筆した。同論文では、「労働市場の需給に関する認知」、「所属企業に対する認知」、「キャリア志向」に焦点を当てた。一級建築士の場合、一人前になるのに10年ほどの期間を要し、その間、職場の先輩社員から指導を受けることになる。そのため、労働市場の動向に応じた機会主義的行動は少ない。一級建築士には、人間関係や「専門能力の発揮機会」などが、転職に伴って失われる「サイドベツト」と捉えられていた、ということが明らかになった。

(3) 論文、「高度専門職の需給状況と経営管理に関する一考察—薬剤師に対するインタビュー調査から—」（単著）を執筆した。同論文では、(a) 長期的展望の計算できる転勤システム、(b) 地理的不利を克服する最先端知識の学習・人的交流システム、(c-1) 数値化の困難な専門業務の人事考課システム（多様な評価項目・手法の確立）、(c-2) 人格や適性を考慮した人材配置（顧客の要望に配慮したサービス・システム）、(d) 政治的強者との交渉システム、(e) 「専門能力の発揮機会」の6点に焦点を絞り、経営管理という点で、薬剤師が職場に定着するのに効果的と考えている事項について、経営側の実現可能性も含めて論じた。その結果、特に(a)(b)(e)の三点が効果的であることが判明した。

(4) 論文、「中小企業診断士の現状と課題」（共著）を執筆した。同論文では、民間企業に勤務する有資格者を主要な被験者として、彼らの現状を紹介・分析した。

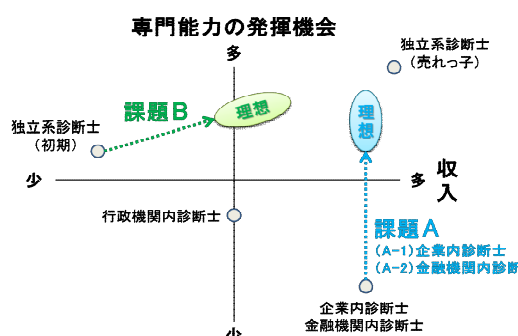


図1 中小企業診断士の現状と課題

図1が示すように、独立開業した中小企業診断士の多くは低収入に甘んじ、企業に残った診断士は副業規定等の制限のため、「専門能力の発揮機会」に恵まれないことが判明した。

(5) 論文、「後発薬の普及が大手調剤薬局企業に与える影響（1）—日本調剤の事例—」（単著）を執筆した。同論文は科研費の採択テーマとは異なるが、薬剤師への調査を進め

ていく過程で、幸運にも日本調剤（株）の三津原博社長にインタビューさせていただく機会に恵まれたため執筆することが可能となった、大手調剤薬局の経営戦略に関する論文である。後発薬の普及で調剤薬局企業が得られる薬価差益が縮小する中で、同社は日本ジェネリックというメーカーを内部化することで、事態に対応してきた事実を時系列的に分析した論文である。

(6) 現在はまだ執筆中であるが、調剤薬局に勤務する薬剤師の「専門能力の発揮機会」と「職務満足」との関係性を分析した日英比較論文、「Opportunities to Demonstrate Expertise and Job Satisfaction in Community Pharmacy — Comparative Study between Japan and England—」（共著）の執筆をほぼ終えている。同論文では、日英の調剤薬局（Community Pharmacy）の業務を精査し、どの業務が「専門能力の発揮機会」（Opportunities to Demonstrate Expertise）と認知されているのか、どの業務が「職務満足」（Job Satisfaction）を生むのか、また「専門能力の発揮機会」と「職務満足」の関係性について分析した。興味深いことに、若干の差異はあるものの、日英の薬剤師にはほぼ同様の傾向が見受けられた。2018年度中に、インターナショナル・ジャーナルに投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計5件）

① 三島 重頭、「後発薬の普及が大手調剤薬局企業に与える影響（1）—日本調剤の事例—」、『経営経済』、査読無、2017、Vol.52、pp.1-20.

<http://www.osaka-ue.ac.jp/file/general/16898>

② 遠原 智文、三島 重頭、前田 卓雄、「中小企業診断士の現状と課題」、『経営経済』、査読無、2016、Vol.51、pp.69-81.

<http://www.osaka-ue.ac.jp/file/general/14683>

③ 三島 重頭、「高度専門職の需給状況と経営管理に関する一考察—薬剤師に対するインタビュー調査から—」、『大阪経大論集』、査読無、Vol.66(4)、2015、pp.101-120.

④ 前田 卓雄、遠原 智文、三島 重頭、「高度専門職の需給状況と所属企業に対する認知に関する研究：建設会社に所属する一級建築士のインタビュー調査から」、『流通科学研究』、査読有、2015、Vol.15(1)、pp.67-83.

https://nakamura-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=2416&file_id=22&file_no=1

⑤ 三島 重頭、「高度専門職の需給状況と雇用管理に関する一考察—薬剤師に対するインタビュー調査から—」、『大阪経大論集』、査読無、Vol.66(1)、2015、pp.87-101.

〔学会発表〕(計6件)

① Shigeaki Mishima, “The influence of permeating Generic Medicine to Multiple Community Pharmacy Company in Japan”, International Conference on Healthcare, Applied science and Engineering, 2016, New York, USA

② 前田卓雄、遠原智文、三島重頭、「建設会社に所属する一級建築士の職場継続意思の形成要因:A社のインタビュー調査を通じて」、経営行動研究学会 第26回全国部会、2016 明治大学駿河台キャンパス

③ 前田卓雄、遠原智文、三島重頭、「建設会社に所属する一級建築士の職場継続意思の形成要因:A社のインタビュー調査を通じて」、経営行動研究学会 第19回九州部会、2016、九州国際大学地域連携センター

④ 前田卓雄、遠原智文、三島重頭、「高度専門職の需給状況と所属企業に対する認知に関する研究 : 建設会社に所属する一級建築士へのインタビュー調査から」、日本経営学会 第89回全国大会、2015、熊本学園大学

⑤ Takuo Maeda, Tomofumi Tohara, Shigeaki Mishima, “Summary of the Actual Conditions of SME Management Consultants”, World Academy of Science, Engineering and Technology, 2015, Kuala Lumpur, Malaysia

⑥ Shigeaki Mishima, “Continuance Commitment of Retail Pharmacist in a labor shortage : Results from The Questionnaire Survey”, World Academy of Science, Engineering and Technology, 2015, Oslo, Norway

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三島 重頭 (MISHIMA Shigeaki)
大阪経済大学・経営学部・准教授
研究者番号 : 60454930

(2) 研究協力者

遠原智文 (TOHARA Tomofumi)
大阪経済大学・経営学部・准教授
研究者番号 : 50369930

前田卓雄 (MAEDA Takuo)
中村学園大学・流通科学部・教授
研究者番号 : 80719245

Felicity Smith
University College London・School of Pharmacy・Professor

Ian Bates
University College London・School of Pharmacy・Professor

荒川直子 (ARAKAWA Naoko)
University of Nottingham・International Pharmacy・Assistant Professor